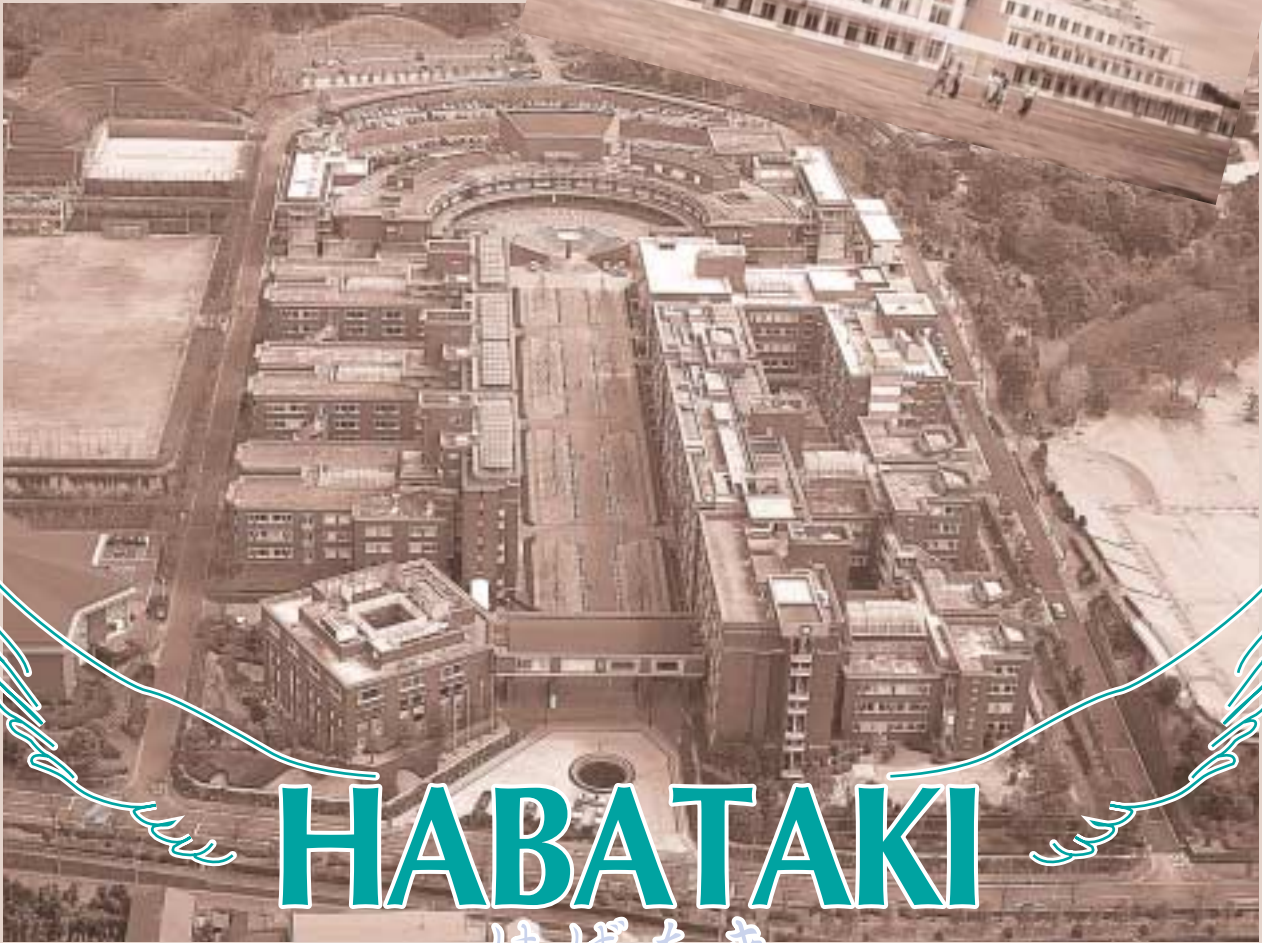


vOLUME  
**76**  
MARCH  
2001



# HABATAKI

ほばたき

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

52-1 Yada, Shizuoka-shi Shizuoka-Ken 422-8526 Japan

inside NEWS



## 21世紀のスタートにあたり

学長 廣部 雅昭



激動の20世紀も終わりを告げ、新しい世紀がスタートをいたしました。この大きな節目の時期に巡り合わせた私どもは、輝かしい発展の一方で、様々な問題点も残して来た前世紀を振り返りつつ、[知と心の世紀]ともいふべき新しい21世紀を創造するために、真摯な努力を重ねて行く責任があると考えます。

新しい世紀がどのように進展するのか、的確な予測は立たないものの、20世紀における戦争、民族差別、環境破壊、教育の荒廃、混迷する経済社会など現実の負の部分について、それぞれの因果関係を私どもは“学習”して来たはずです。未来に向けて目標を大きく掲げ、その実現に向け勇気をもって邁進することの大切さは当然として、同時に常にそれらがもたらす負の影響についても十分考察しながら、軌道修正を果敢に行ってゆくことが今世紀特に重要ではないかと考えます。

わが国の大学も現在国公立を問わず、大きな曲がり角に来ていることは周知の通りであります。過去のマイナス部分を修正するための諸改革が全ての大学に求められております。わが県立大学も新世紀を迎えた本年は創立15周年目にあたりますが、大学をとりまく近年の厳しい諸状況の中

で、時代の変化にも柔軟に対応しつつ、社会の要請に応えられるよう様々な改革を行う必要があります。そのため大学運営体制の整備、教育・研究体制の充実など、さらなる活性化を目指した諸施策を実施に移しつつありますが、ここに最近の主な動きについて、ご報告をいたしたいと思います。

### [大学運営体制の整備]

大学を取り巻く急速な環境変化に柔軟に対応しつつ、社会が求めている新しい大学像を構築するためには、正しい現状認識と評価に基づき、新しい理念の構築と、その具現化のための的確かつ迅速な企画・立案を行うとともに、全学的な合意の形成と調整を図りつつ、果敢に実施して行く執行体制の強化が不可欠であります。そのため昨年8月に、評議会、部局教授会、各種委員会との密接な連携のもとに、機動的、経営的かつ透明性のある大学運営を行えるよう、学長、部局長、学長補佐からなる大学経営会議を発足させました。学長、学長補佐、事務局長、学生部長からなる学長企画室の設置と併せ、積極的な運営を図ってまいります。また全学的事項を検討する各種委員会を活性化する目的で、統廃合を行うとともに、社会の要請にも対応しうよう広報委員会、教務委員会、産学連携推進委員会、倫理委員会、留学生委員会、保健衛生委員会などを新たに設置し、現在活発な活動が展開しつつあります。

### [教育・研究体制の整備・充実]

高度医療の進展など社会のさらなるニーズに対応するため申請しておりました大学院看護学研究科の設置が認められ、本年4月より第一期生が入学することになりました。さらに医療機

関との連携を視野に入れた大学院薬学研究科医療薬学専攻の設置を目指し、現在鋭意準備が進められております。また本年4月より食品栄養科学部が管理栄養士養成施設としての指定をうけるため、新研究棟の増設など環境の整備が図られております。また大学院経営情報学研究科では社会人を対象としたビジネス講座を県東部地区（沼津）に開設し、地域のニーズに応えるための準備が進んでおります。学問が益々細分化、学際化される中、教育内容の充実・拡大をはかる目的で、本学の学部間（国際関係学部 経営情報学部）、大学院研究科他専攻間（生活健康科学研究科:食品栄養科学専攻 環境物質科学専攻）の単位互換制度が実施されます。将来的には各部局間での研究・教育のさらなる連携へと発展することが期待されます。また地域連携のニーズの高まりをうけて、地域大学間の研究・教育連携を推進するために、従来の静岡大学に加えて、静岡産業大学との間の単位互換制度も新年度スタートすることになりました。それぞれの独自性を強化する一方で、地域の大学、試験研究機関、医療機関、民間企業などとの活発な交流が今後期待されます。

#### [ 広報活動の充実 ]

現在大学は社会に開かれた存在としての意義が問われております。研究・教育内容をはじめ、大学の活動実態を広く社会に伝えるための広報活動を積極的に展開すべく、現在広報委員会を中心に準備が進んでおりますが、まず大学のホームページをさらに充実させ、その中で教員の教育、研究業績、社会活動等を掲載した“教員プロフィール”をインターネットを通じて公開することといたしました。これらは産学連携など地域連携にも役立つと同時に、大学志願者への情報提供にもなるはずです。大学の広報活動は社会からの評価をうけ

る意味もあり、広聴体制の整備とともに大学が行うべき社会的責務であると考えます。

#### [ 15周年記念事業としての学術フォーラムの開催 ]

本年は本学創立15周年目にあたります。この機に本学の教育・研究活動など日頃の成果を公開し、新世紀のスタートへの決意を新たにすべく [ 21世紀県立大学学術フォーラム ] を年間を通して開催する事といたしました。全部局が単独または部局横断的テーマのもとに、新時代にふさわしい企画をたてられるよう期待いたします。学長特別研究費による研究成果報告を軸としたフォーラム（公募企画）と、実行委員会企画に大別されますが、剣祭などの学生企画も歓迎いたしますので、15周年事業にふさわしい計画を提案されるようお願いいたします。なお静岡新聞・SBS静岡放送との共催になる県立大学創立15周年記念特別公開講座 [ 人間といのち ] も5月から12月まで開催されますが、全部局の教員が講師として参画いたします。

21世紀初頭は、なお混迷の時期が続くと思われませんが、厳しい時代こそ、新しい価値観や創造力が生まれるチャンスでもあります。努力するものが報われ、易きに流れるものは淘汰される・・・そのような緊張感ある所に、瑞々しく活力のある社会が形成されるものと考えます。本学が今後も静岡県の高等教育・研究機関の中核の一つとして発展し続け、地域社会の期待に応えうる輝く存在であるためにも、教職員、学生諸君のなお一層の自覚と努力を心から期待する次第です。

## 短期大学部静岡校の動き

短期大学部部長 田中丸 治宣

短期大学部静岡キャンパスは、第一看護学科、第二看護学科、歯科衛生学科及び社会福祉学科（社会福祉専攻、介護福祉専攻）の4学科からなる医療・保健・福祉系の短期大学として、平成9年4月に開設されました。平成12年10月現在、全学科で559人の学生が学んでおり、そのうち男子学生は16人です。

### 入学者及び卒業後の進路について

入学者の選抜方法は、一般選抜の他に、推薦入学、社会人特別選抜、私費外国人留学生特別選抜があり、平成12年度は、推薦入学で66人、社会人特別選抜で8人が入学しているが、私費外国人留学生特別選抜での入学生はありませんでした。平成12年度入学試験の志願者数は、4学科合わせて1,109人で、入学定員(240人)に対する志願者の倍率は約4.6倍でありました。入学試験志願者の推移は、学科によって多少の変動はあるものの、短期大学部全体では志願者が増える傾向を示しています。また、平成12年度入学者のうち県外出身者は約23%でありました。入学志願者が多く、また県外からの入学生が多いという結果をみると、医療・保健・福祉系の公立短期大学は全国的にも数少ないため、本学に対する受験生の関心が高く、この分野に対する社会的な要請が高いことを反映していると思われます。

卒業後の進路は、平成12年3月の卒業生では、さらなる勉学、研修の場を求めて4年制大学への編入学等で進学をしたものが約1割でありまし

た。その他は多くのものが専門職としての就職を希望しており、就職希望者は全員就職しています。第一看護学科及び第二看護学科の卒業生は、看護婦として県内の国公立病院を中心とした病院に就職したものが多数を占めています。歯科衛生学科の卒業生は、そのほとんどが歯科衛生士として歯科医院に就職しています。社会福祉専攻の卒業生は、公立、私立の保育所、社会福祉施設等に就職しています。介護福祉専攻の卒業生は、大部分が介護福祉士として特別養護老人ホーム、老人保健施設に就職しています。ちなみに短期大学部に対する求人は平成12年度も順調であり、このことは社会的に要望される有為な人材を送り出していることが評価を受けているものと考えています。

### 短期大学部のさらなる充実に向けて

時代の流れからみて、保健、医療及び福祉の複合化が重要となっており、それに応えるべく本キャンパスには、医療・保健・福祉に関わる学科が設置されています。また互いに他の分野の従事者との相互理解を深め、共同して実践することの重要性を認識し、必要に応じた連携を図るための知識を修得するための学科共通科目も設定しています。学生にとってはこのような学科共通科目をはじめとする科目を通して他の分野についても知ることが大切であることはもちろんですが、それ以上に2年ないし3年間の短期大学部での学生生活の中で、このキャンパスに医療・保健・福祉に関わる学科が総合的に設置されているという環境を最大限生かして、他学科の学生や教員と交流し、他分野のことを肌で感じ取り、視野を広げていく

ことが大切であると思います。このような交流は随所にみられてはいますが、いまだ充分とは言えず、教員を含めて他学科との交流がさらに推進されることを切望しています。

短期大学部としては、平成13年度には浜松キャンパスの廃止により一般教育等教員が静岡キャンパスに統合し、新たな時代を迎えることとなりますが、現状にとどまらず教育、研究の内容をさらに充実させ、地域に貢献できるさらなる発展を目指して取り組んでいきたいと考えています。



歯科衛生学科の実習

## 短期大学部浜松校の動き

短期大学部副部長 青山 政雄

いよいよ短期大学部浜松校は学び舎の幕を閉じようとしております。閉校は県立大学短期大学部として14年、またその前身である静岡女子短期大学が浜松の布橋の地に開設されてからは35年の歴史に終始符を打つことを意味します。本学は昭和62年4月に、県立三大学の統合とともに、文化教養学科(120人)、食物栄養学科(40人)、第一看護学科(30人)、第二看護学科(30人)の四学科からなる総合短期大学として開学しました。平成9年4月には、学生定員を増やしながら第一看護学科(60人)と第二看護学科(40人)を静岡市に移設し、新たに歯科衛生学科(40

人)と社会福祉学科(社会福祉専攻50人、介護福祉専攻50人)を加えて、医療福祉系の短期大学部静岡校が開設されました。ここに本学は2キャンパスの時代を迎えました。他方では、県西部地域住民の強い要望に基づいて、短期大学部浜松校を基礎とする静岡文化芸術大学が平成12年4月に開学し、これに伴って、本校は平成13年3月31日にその歴史的使命を終えることになりました。

浜松校は、世界に目を向け、国際的視野を身につけるよう努めながら、多様化した現代社会に対応するための深い教養と文化・情報・「食」の専門的知識を培い、地域社会に貢献できる有能な人材を育成することを目指してきました。現在、全学生は2年生のみで、169人が卒業を迎える予定

です。文化教養学科の学生は130人であり、女子学生128人、男子学生2人から成っています。これらの学生たちの中には、社会人入学者1人、韓国からの留学生1人が含まれています。食物栄養学科の学生は39人であり、女子学生36人、男子学生3人です。そのうち4人の社会人入学者が勉学に励んでおります。本校は、社会人聴講生制度や公開講座などの実施によって地域と時代の要請に応えながら、14年の歴史（13年の卒業式）において2600人以上の卒業生を社会に送り出すことになり、県内はもとより県外においても高い評価を得てきたように思われます。卒業生が民間企業をはじめ医療機関、官公庁など様々な分野で活躍しているのを見たり聞いたりしますと、本校の出身者が社会に広く、また深く根を下ろしていることを実感いたします。

浜松校の全教員は、本年2月1日現在、30人（教授7人、助教授12人、講師8人、助手3人）で構成されています。教員の移行予定先は昨年度までに短期大学部静岡校、県立大学食品栄養科学部、県大学室などのご配慮とご協力によって決定されており、12人が短大部静岡校に、5人が県立大学食品栄養科学部に、12人が静岡文化芸術大学に、1人が県の行政部門に移行することになっています。移行先の研究室も確保され、図書や備品等の輸送の準備が進められております。

昨年11月3日に浜松校最後となる橘花祭が縁（えにし）というテーマで行われ、在学生はもとより多くの同窓生や市民が閉校を惜しみ集い、学園祭は思い出深いものになりました。浜松校の歴

史を閉じるに際して、私たち教職員はある種の寂しさを抑えることはできません。特に文化教養学科や食物栄養学科の卒業生・同窓生は母校の喪失という悲哀を感じていることと思います。しかしながら自立と友情を尊ぶ浜松校の良き気風は、新たな世紀の幕開けを迎えた中で、静岡の短期大学部や静岡文化芸術大学に受け継がれていくと同時に、私たち一人ひとりの心の支えとして生きていくと信じております。



浜松校最後の橘祭

## ウズベキスタンからの研究生滞在記

ウズベキスタンからの国際交流基金12年度フェローシップ招聘者として来日したウミロフ・ワヒドさんは、本学国際関係学部小谷野教授の指導の下で、大学院研究生として研究を行っている。来日して半年、自己紹介と静岡滞在の感想を寄せてもらった。

大学院国際関係学研究科研究生 ウミロフ ワヒド

私は昨年9月にウズベキスタンからこちらにきました。当地では、中央アジアの経済開発について研究しています。国際信用供与に関する法制度の整備を中心に研究しています。日本は世界最大の援助供与国であり、また民間ベースでも多大の対外投資をしていますので、日本がこの問題をどうみているかも研究の重要なポイントで、当局者にインタビューをしています。私は、来日前はウズベキスタンの中央銀行に勤務していました。同地では中央銀行が外資を担当しています。

現在、国際関係学部の小谷野教授の指導下で国際金融、国際通貨体制や日米の金融政策について学んでいます。講義に出席していますが日本語能力が十分でないことを痛感しています。個人指導の際には英語で議論しています。また、小浜教授とは最近の国際経済に関する論文について、宮田助教授とは中央アジアの地政学的問題について英語で討論しています。

私はロシア語、英語が話せます。また、アラビア語を学んだことがあります。日本語は世界で最も美しい言葉の一つではないかと思えます。太陽堂書店の伊藤さんご家族は大変親切にしてくれます。こうした人々とお話することは大変楽し

いです。大学では、アメリカ、カナダ、ポーランド、ネパール、韓国などの出身の先生、学生、研究生に会うことができました。ところで、私は、カザフスタンから大学院に留学に来ているナターシャさんやロシアから来ている学部生のキリル君とはロシア語で話します。これを見て驚く人がいますが、私の国では多くの人はロシア語をとても上手にしゃべります。元ソビエトの共和国であった他の国々でもそうです。

ウズベク語も美しい言葉です。ウズベキスタンには、世界各地からわが国を訪れる人々がいます。ウズベキスタンの歴史や習慣を研究したりウズベク語を学ぶ人もいます。私はウズベク語を上手に話す日本人を何人か知っています。宮田先生はウズベク語を勉強し始めました。その手助けができることを大変うれしく思っています。

私は多くの日本人がウズベキスタンのこと、特にその歴史や文化、地方の伝統について知らないことに驚きました。我々の祖先のアル・ホRezミが現代数学の基礎である代数の創始者であることや、アブ・アリ・イブン・シナが現代医学（英語のメディスンは『シナの助け』からきています）の主要な貢献者であることを知っている人は少ないと思います。

私は、ウズベキスタンやその歴史、言葉に関心

を持たれた方にできるだけ協力したいと思っています。例えば、ウズベキスタンの歴史や文化について書かれた本を数冊持っていますが、これらをお見せすることができます。

私は日の昇る国日本、そのなかでも静岡に大変よい印象をもっております。ここで社会科学の研究をするかたわら日本の文化、伝統、言葉を学ぶ機会を得られたことを大変幸せに思っております。



大学院での授業

## 平成12年度県費留学生修了式

平成13年3月5日、本学において平成12年度静岡県県費留学生修了式が行われた。

本学が受入れた県費留学生は、堀内 コルドバ アンヘラ ペアトリスさん。アンヘラさんは、ペルーのリマ出身、リマ大学に在学中で、休学して平成12年4月から平成13年3月までの1年間、静岡県立大学で研究を行った。

経営情報学部研究生として影山喜一教授の指導を受け、「日本企業の経営と日本の文化、風土、歴史との関係」、「国際ビジネスに適應した経営論」をテーマに研究した。

静岡県県費留学制度は、昭和39年度から実施されている。この制度は南米諸国在住の静岡県出身者の子弟を県内に留学させることにより、学術・文化の交流を図り、併せて両国の相互理解と友好親善に寄与することを目的としている。

受入れ大学は、本人の志望分野により決定され、

静岡大学、静岡県立大学等で受入れてきた。本学では平成元年度より受入れをはじめ、平成12年度までに累計で、22名を受入れた。



修了証書を受けとる堀内さん



## 静岡産業大学と単位互換協定を調印

本学と静岡産業大学は、学生の多様な学習需要に柔軟に対応するとともに、大学教育の一層の活性化と充実を図ることを目的に、平成13年4月1日より「単位互換制度」を導入する。平成13年1月24日に本学において単位互換協定の調印式を行った。

調印式には、本学より廣部学長、実施学部の小林経営情報学部長、静岡産業大学より大坪学長、河合経営学部長、中條国際情報学部長等両大学の関係者が出席。両学長が単位互換協定書に署名、次に両大学の学部長が協議書と覚書に署名した。

単位互換は本学の経営情報学部と静岡産業大学の経営学部及び国際情報学部で実施される。対象の履修科目は毎年度両大学で協議して定めるが、専門科目で、派遣学部が開設していない科目が対象となる。履修できる単位数は、通算して12単位を上限としており、授業料（聴講料）、入学金、

入学検定料は相互に無料となる。

調印式で廣部学長は、互いが持っていない専門領域について交流することは、お互いの刺激となり、新しい分野でも創造性が生まれることが期待できる。今後も地域の大学の連携を推進し、よいことは何でもやっていきたいと挨拶した。



両学長による協定書の調印式

## 環境研究交流しずおか集会講演会

本学環境科学研究所は、静岡県環境に関する研究のネットワーク化、研究情報の交換を目的として平成9年度から、環境研究交流しずおか集会を開催している。

環境科学研究所、静岡県環境衛生科学研究所、静岡工業技術センターなどの県内公的試験研究機関の連携から始まった集会は、平成10年度から毎年環境に関する講演会を開催してきた。

平成13年3月2日に開催された今回の講演会は、テーマに身の回りにおける環境問題を取り上げ、国・公立研究所の専門家が講演した。講演内容は、主にフィールドワークを基盤とした研究を紹介する講演で、研究者、学生、環境関連事業者、環境に関心のある一般の方々が参加した。

本学小講堂で開催された集会は、静岡県環境衛生科学研究所の篠原英二郎氏による「常時監視局がとらえた三宅島噴火による静岡県下の高濃度大

気汚染」、神奈川県衛生研究所の竹田 茂氏による「生活排水処理の現況と問題点（特に消毒を中心に）」、国立がんセンター・研究所の多田敦子氏による「食品中の変異原・がん原物質」、東京都立衛生研究所の高橋保雄氏による「水道水中の有機ハロゲン化消毒副生成物について」が講演された。

講演終了後、出席者から、講演内容について活発な質問が出されていた。



集会で挨拶する相馬環境科学研究所所長

## 留学生と中学生の交流授業

2月8日、静岡市立大里中学校の生徒8名が本学を訪問し、留学生にインタビューを行った。今回の訪問は大里中学校から、「探求学習」の一環として、インタビューを通じて国際理解学習を行いたいと申し込みがあったもの。

中学1年生の8人は、本学の国際交流談話室に集合。レズニーク・キリルさん（国際関係学部2年生 ふじのくに親善大使）、湯 薇薇さん（国際関係学研究科研究生・第2回しずおか世界翻訳

コンクール 最優秀賞受賞者）など本学留学生の5人にインタビューした。

留学生と中学生、それぞれが自己紹介した後、県立大学でどのようなことを学んでいるのか、静岡での学生生活に関する感想、出身国の文化について話し合った。

インタビュー終了後、大里中学校の先生も加わって一緒に食事し、留学生と交流を深めていた。



中学生のインタビューを受ける留学生

## 「県立大学茶先端生命科学研究会」研究発表会開催

県立大学では、以前より茶の有効性を検証し、新しい機能を見出し、機能発現のメカニズムを明らかにする研究が行われてきた。「茶先端生命科学研究会」は、個々の研究室での研究成果の情報交換や貴重なサンプルの交換などを行って、共同研究を進めることにより、お茶に関する研究を進展させるために発足した。本研究会は平成10年12月に行われた本学シンポジウム「茶葉成分及び関連物質生体作用の細胞生物学的・分子生物学的研究」を機に、これまでの研究基盤の上に最新の生命科学技術を駆使して、茶機能を細胞生物学的、分子生物学的に明確にすることを目的に組織された。

この研究会のメンバーは、薬学部、食品栄養科学部、大学院生活健康科学研究科、環境科学研究所、短期大学部の教員により組織され、茶の抗癌作用、抗ウイルス作用、動脈硬化などの種々の疾

病に対する抑制効果について研究を進めている。

平成13年3月6日に開催された研究発表会では、「茶カテキンの脳障害軽減効果」や「ヒト胃癌細胞の増殖に対するカテキン類の増殖阻害効果」など21演題に及ぶ最新の研究成果が、研究代表者により発表された。



研究成果の発表

受賞

## 第31回全国学生俳句大会入賞

日本学生俳句協会主催、財団法人日航財団の協賛により平成12学年度 第31回全国学生俳句大会が開催され、小学生から大学生まで、全国から149,462句の応募があった。審査の結果、本学の学生が次のとおり入賞した。

- 入選 志村 亜矢子 国際関係学部 国際言語文化学科3年  
「かたつむり一筆書きを残しけり」  
上田 裕一郎 国際関係学部 国際言語文化学科4年  
「ラガー等の低き冬日を押し上げて」  
佳作 志村 亜矢子 国際関係学部 国際言語文化学科3年  
「朽ち果てし士卒の脇に曼珠沙華」  
望月 華 国際関係学部 国際言語文化学科3年  
「さや押せば枝豆砲の的外れ」

学校対抗部門

高校・大学の部 第1位 静岡県立大学

## 第3回日本水処理生物学会論文賞（日本水処理生物学会）

論文題目：環境微生物を用いたコメットアッセイ操作条件の実験的検討  
（日本水処理生物学会誌、第35巻第4号、261-270(1999)）

受賞者：岩堀恵祐、宮田直幸（環境科学研究所）  
下位香代子、木苗直秀（食品栄養科学部）他2名

（所属は受賞時）

受賞日：平成12年11月9日

受賞理由：平成11年に日本水処理生物学会誌に掲載された論文の中で、当該論文は水処理生物学の発展に著しく寄与する論文と認め、第3回論文賞とする。



### 新刊案内

本学関係者著書紹介

宮田 律 著（国際関係学部助教授）

『イスラム・パワー 21世紀を支配する世界最大勢力の謎』

講談社 2000年12月8日発行

「本書は、21世紀、そのパワーをいよいよ台頭させるであろうイスラムのメカニズムを読者に分りやすく解説し、またイスラムの将来を見とおすことを意図したものだ。イスラムが復興し、なぜ多くの支持を現代のムスリムの間で集めるようになったのか。かつて私がイスラムの研究から元気を与えられたように、この書がイスラムへの興味や関心をかき立て、その理解の一助になれば大変幸いに思う。」

～本書「まえがき」より



## “ はばたき寄金 ” からのお知らせ

### 短期交換留学生に対する奨学金の授与

平成12年度のモスクワ国立国際関係大学からの短期交換留学生V・ヴェローニナほか5人に対して、1月15日、学長から一人五万円の奨学金を授与しました。

各学部の成績優秀者に、卒業式において「はばたき賞」を授与しました。

学 部	学 科	氏 名
薬学部	薬学科 製薬学科	本間 かこみ 岡崎 淳子
食品栄養科学部	食品学科 栄養学科	奥田 裕美 七田 史
国際関係学部	国際関係学科 国際言語文化学科	鈴木 紀幸 久保田 奈奈
経営情報学部	経営情報学科	米原 芳美
看護学部	看護学科	塩川 真由美

教員、学生に対して「はばたき賞」を授与しました。

国際関係学部 石川 准 教授  
生活健康科学研究科博士前期2年 鶴崎 美徳  
食品栄養科学部4年 山原 香織

2月末現在の寄金残額 4,238,230円

平成12年度寄附金累計額 1,317,958円(2月末現在)

[前号以降の寄附者(教職員敬称略)]

教職員 (経営情報学部) 匿名希望者(1名)

(事務局) 匿名希望者(1名)

学 外 おおとり会様

(静岡女子大学・静岡女子短期大学同窓会)



(1月から2月末までの集計分)

短期交換留学生に対する奨学金の授与

## 研究助成の採択

平成13年度 財団法人 三栄源食品化学研究振興財団研究助成

阿部 郁朗 静岡県立大学薬学部生薬学教室 講師

「ムラサキイモ色素生産に関わる酵素遺伝子の精密機能解析」

## 静岡県立大学開学15周年記念特別公開講座 「人間といのち ヘルス・サイエンス」開催

本学は、平成13年度に開学15周年を迎えます。これを機に、更に一層、県民に開かれた大学として、生涯学習の機会の提供、地域文化の向上に貢献していきたいと考えています。そこで、開学15周年記念事業の一環として、静岡新聞・SBS静岡放送と共催で「特別公開講座」を実施します。

- 1 主 催 静岡県立大学、静岡新聞・SBS静岡放送
- 2 場 所 しずぎんホール・ユーフォニア（静岡市呉服町 アゴラ静岡8階）
- 3 募集定員 高校生以上 450人（先着順、8回分一括申し込み）
- 4 受講料 8,400円（高校生は、半額の4,200円）
- 5 申込先 静岡新聞社・SBS静岡放送「県大公開講座係」
- 6 申込に必要な項目  
郵便番号、住所、氏名、生年月日、職業（高校名）、電話番号、FAX番号
- 7 申込方法 はがき 〒422-8680 静岡市登呂3-1-1  
FAX 054-284-9031  
Eメール sbsjigyo@tokai.or.jp
- 8 申込期限 平成13年4月30日
- 9 問い合わせ先 静岡新聞社・SBS静岡放送事業局 TEL 054-284-8920
- 10 講座内容

回数	開催日	担 当			テ ー マ
第1回	2001年 5月20日（日）	看護学部 薬学部	廣部 雅昭 西垣 克 齊藤 惠實	学長 教授 教授	いのちを守る医療と医薬 （挨拶） いのちとは何か、いのちを守るものは何か いのちとくすり
第2回	6月16日（土）	薬学部 薬学部 薬学部	園部 尚 奥 直人 今井 康之	教授 教授 教授	いのちを脅かすものへの対処 創薬の新しい方法論 薬はがんを克服するか 免疫
第3回	7月14日（土）	食品栄養科学部 食品栄養科学部 生活健康科学研究所	熊谷 裕通 渡辺 達夫 小林 裕和	助教授 助教授 助教授	いのちを守る食生活 病（やまい）を食べて治す 食品で痩せる 飢餓を救う植物遺伝子組換
第4回	8月18日（土）	看護学部 生活健康科学研究所 短期大学歯科衛生学科	木村 忠直 山口 正義 吉田 直樹	教授 教授 助教授	いのちを支える体のメカニズム 筋肉の大切さ 骨の大切さ 歯の大切さ
第5回	9月8日（土）	看護学部 看護学部 国際関係学部	永井 洋子 佐藤 登美 石川 准	教授 教授 教授	いのちとこころ 若者とこころ いのちをとりもどす看護 いのちの始まり、いのちの終わり
第6回	10月13日（土）	国際関係学部 国際関係学部 国際関係学部	志田 直正 伊豆見 元 小浜 裕久	教授 教授 教授	いのちを守るネットワークと国際社会 高齢化社会とネットワーク 北東アジアの安全保障と日本 日本の安全と経済協力
第7回	11月17日（土）	経営情報学部 環境科学研究所 環境科学研究所	渡部 和雄 岩堀 恵祐 横田 勇	教授 助教授 教授	いのちを守る環境 いのちを支える災害情報ネットワーク いのちを育む水 いのちの源泉としての物質の循環
第8回	12月15日（土）	看護学部 薬学部 国際関係学部 環境科学研究所 経営情報学部	西垣 克 奥 直人 石川 准 岩堀 恵祐 北大路信郷	教授 教授 教授 助教授 教授	パネル・ディスカッション “いのちの値段、介護の値段、薬の値段”

## 草薙神社のヤマトタケル像

県立大学の東南に『草薙神社』があるのは、周知のとおりである。創建は古く、1900年前と伝えられている。『延喜式』という、奈良時代の全国有名神社一覧記録にも有度郡の大社として、その名前があるほどである。いうまでもなく、ヤマトタケルは第十代景行天皇の第二皇子で、天皇の位につかなかったが、『古事記』では、天皇として扱われている。その所持していた剣は、『草薙の剣』と言われている。

### 弓道部も利用

このあたり一帯にいた住民は、ミコトを神と祭ったが、よく見ると、この神社は稲作に大事な水源の地であることが分かる。古来農民にとり、大切な水源の地は、神社をつくり守られてきた。

神社境内に、ミコトをたたえて、石像が建てられている。同じ像がもうひとつ日本平山頂にもある。

この『草薙の剣』が、同神社にも祭られていると

## 谷田風土記

68

いう。もちろん実物は、熱田神宮にあるのだが、ご神体として、もうひとつあってもいいのである。

草薙神社は、広く崇拝者をもっているが、県立大学の『弓道部』も、大学創立以来、同社の弓道場を利用させていただいており、いい成績を挙げている。

(国際関係学部教授 高木 桂蔵)



神社境内のヤマトタケル像

## モスクワ国立国際関係大学短期交換留学生来学

県立大学と学術交流協定を結んでいるモスクワ国立国際関係大学(MGIMO)から、短期交換学生交流事業による派遣学生が、1月初旬来日した。

今回は本学への派遣希望学生が多数いたため、MGIMOからの強い希望により、6名の学生を1ヶ月間受入れることになった。

学生は国際関係学部3年のヴァレリー・カミンスキーさん、国際経済学部4年のデニス・スモロージンさん、国際経済学部4年のゲオルギー・ヴォルコフさん、国際関係学部4年のヴェーラ・ヴォローニナさん、国際経済学部4年のセルゲイ・キリーロフさん、国際関係学部4年のユーリイ・アルトゥホフさんの6人。

6人は国際関係学部で日本語や日本文化、各々の専門分野についての授業を聴講した。

2月初旬までの1ヶ月間、静岡、清水市内のホストファミリー宅にそれぞれホームステイし、日本の家庭で生活しながら本学で勉強を続けた。また

サッカーを通じて本学学生と交遊を深めた。

短期交換留学制度による学生受け入れは今年度で4年目、モスクワ国立国際関係大学からの留学生は、今年を加えて現在までに合計10人の学生を受け入れて来た。

滞在中の1月15日には、はばたき寄金から奨学金が授与された。また2月1日には、日本平留学生基金(世話人代表:イトウ秀雄氏)から奨学金が授与され、授与式ではイトウ氏より留学生に勉学に励むよう激励の言葉がかけられた。



日本平留学生基金からの奨学金授与式

## モスクワ留学体験記



MGIMO ロシア語のクラスメート  
(コロンビア、中国、ベトナムの学生と)

国際関係学部国際言語文化学科4年生 古本 陽子  
国際関係学部国際言語文化学科4年生 佐々木 茜  
9月27日から12月27日の3ヶ月間、私たちは交換留学生としてモスクワ国際関係大学(MGIMO)でロシア語を学ぶ機会を与えていただきました。

日本人にとって「ロシア」とはまだ未知の国であり、一般的にはモノがなく、治安が悪いというイメージを抱くようで、「なぜわざわざそのような国に行くのか」と聞かれることもしばしばありました。実際、私たちがロシアに出発する直前には、モスクワ市内のオスタンキノ・テレビ塔の大火災、防衛庁職員のスパイ問題、潜水艦クルスクの沈没など、私たちの渡航を阻むように次々と事件が起こり、私たち自身、ロシアに行くことに対して不安があったことも確かでした。

そして、「不安」は別の側面で見事に的中し、ロシア語が全く話せない私たちにとっては毎日が戦いでした。パン1つ満足に買うことができない、自分の要求を相手に伝えることができない、そのもどかしさから苛立ってしまうことも度々ありました。

このような私たちの状況を救ってくれたのがMGIMOの日本語学科の学生さんでした。彼女た

本学と学术交流協定を締結しているモスクワ国立国際関係大学への短期交換留学生として派遣された、国際関係学部国際言語文化学科4年生の古本 陽子さん、佐々木 茜さんから短期留学の体験記が寄せられた。

2人は平成12年9月27日から平成12年12月27日までの3ヶ月の間、交換留学生としてモスクワで過ごした。

ちのおかげで、徐々にではありますが、生活に広がりができ、ロシアを眺める余裕を持つことができるようになったのだと思います。彼女たちの日本語能力レベルは非常に高く、また積極的に日本語を話し、学ぼうとする意欲には感心させられるばかりです。

「エータ・ロシア」。トラブルが起こるたびに笑いながら彼女たちはそう言います。朝起きると水が出ない、夜帰るとお湯が出ない、宿題を始めると停電になる、小銭がないと怒られる。そして、「これがロシアさ」と、いつしか何事もなかったようにやり過ごせるようになった自分たちにも笑



モスクワ市内のキリスト救済寺院

